

## (4) 教養ゼミ体験学習発表会

### ① 世羅郡世羅町 世羅大豊農園 <平成 27 年 5 月 23 日(土)>

#### 田辺ゼミの発表

平成 27 年 7 月 1 日(水)に実施した地(知)の拠点教養ゼミ体験学習発表会における田辺ゼミ(1年生 10名)の発表概要は、以下の通りでした。

- 世羅町にある農事組合法人大豊農園にうかがってきました。
- 組合長の講義で、大豊農園の歴史を学びました。ゼロからのスタート。創設時の苦勞。土壌、気候、人材など様々な課題に対処し、農園を大きく発展させてきたお話をうかがいました。
- ゼミ生全員で一次摘果を体験。作業の重要性を教えられ、緊張しつつ従事。身体的にとっても厳しい作業であることを実感し、ふだん食べている梨の裏に農家の方々の地道な努力があることを改めて感じました。
- 広大への要望をいただきました。  
1) 梨の PR をしてほしい。2) 梨の熟度判定メガネ、サイズ判別カメラなど(以下プレゼンファイル参照)、様々な農業技術の開発に対する大学への期待をうかがってきました。
- 「地道な作業の大切さ。作物の病気との気遣い、経済的な苦勞など、農家の現状を知り、生物生産学部で取り組む課題を知った」体験授業でした。



### ② 広島市 太田川漁協 <平成 27 年 5 月 24 日(日)>

#### 富山ゼミの発表

平成 27 年 7 月 1 日(水)に実施した地(知)の拠点教養ゼミ体験学習発表会における富山ゼミ(1年生 11名)の発表概要は、以下の通りでした。



- 広島市北西部、太田川漁協の皆様  
に受け入れていただき、太田川で体験授  
業を行いました。

- 講義では、太田川漁協の活動につ  
いて学びました。稚魚の育成、放流、漁  
業権の管理など、漁協の活動は、中長期  
での資源確保と環境の保全を目的とし  
ています。

- アユ放流のための河川清掃を行

いました。さまざまなゴミを大量に回収、「一人一人が何気なく捨てるゴミが川を汚すという意識が足りない」と実感。

- アユの放流を体験後、生き物を観察。珍魚カマツカなど川に生息する多種多様な生物を採集しました。なお、大学に持ちかえった生物はすべて中にいたなまらずに食べられてしまった。
- お昼時、アユとサクラマスを試食。「川の恵みの大切さ、環境の大切さを思いました。」
- アユ漁についての講義。アユの漁獲量は、平成4年度以降大きく減少、漁業従事者も減り、最盛期の1/10ほど。天敵にねらわれやすいピンク色のアユの出現(原因不明)が近年問題になっています。
- 「このピンク色アユの原因究明と対策、ブラックバス・川鵜などの天敵対策、河川清掃など、広大が協力できる課題があることがわかりました。」
- 「太田川漁協では、釣り(竿を貸してくれます)、アユの試食など、一般向けイベントを行っています。広大生もぜひ訪れて参加してみましよう！」

### ③ 安芸太田町井仁地域 <平成27年5月23日(土)>

#### 吉村ゼミの発表

平成27年7月1日(水)に実施した地(知)の拠点教養ゼミ体験学習発表会における吉村ゼミ(1年生 11名)の発表概要は、以下の通りでした。

- 山県郡安芸太田町中筒賀井仁に田植えに伺いました。
- 地元「太田川産直市」を訪問。地域密着・地域自治型ですが、経営理念の徹底により、客数・売上げ共に増加しているそうです！農作物以外も農家特有の様々な品物がありました。
- 地域講義1<井仁の課題> ♪棚田の郷♪に歌われるほど美しい棚田ですが、後継者不足と高齢化により、実際に稲作が行われている田んぼは半分ほど。それでも、子孫に

棚田を譲り渡したいと願う地元の方々の複雑な思いをうかがいました。

- バーベキューでお昼。とびきりおいしかった棚田米のおにぎり。寒暖差ときよらかな水により、粘りのある甘いお米ができることを教えていただきました。
- 全員で田植えを体験。田んぼの線引きのあと、一定の間隔で、一定の深さまで、苗を植えていくことで、苗が均一に豊かに成長することを教えていただき、作業しました。
- 地域講義2〈先人の知恵〉 「お年寄りには生活の知恵がいっぱい。だから、多くの若者に、お年寄りと接して先人の知恵をいっぱい受け継いでいってほしい。」棚田保存会「いにぴちゅ会」会長からの熱いメッセージでした。
- 私たちの考えた井仁の課題と解決策 「人口減少・高齢化、労働力不足を解消するために、若者を呼び込むことが必要で、そのためには、他にはない井仁のオンリーワンを探ることが解決策だと思います。私たちは、これからも井仁と関わり、稲刈りや田植えにも来て、オンリーワン探しに協力してゆきたいと思います。」
- セレモニータイム。広大の田んぼに立てる看板を棚田保全会いにぴちゅ会会長に贈呈しました。ゼミ生が、美しい景色を阻害しないよう、パステルカラーで描きました。



#### ④世羅町 世羅幸水農園 <平成 27 年 5 月 30 日(土)>

##### 実岡ゼミの発表

平成 27 年 7 月 1 日(水)に実施した地(知)の拠点教養ゼミ体験学習発表会における実岡ゼミ(1年生 11名)の発表概要は、以下の通りでした。

- 世羅郡世羅町の幸水農園に伺ってきました。
- 世羅町は人口の高齢化が進んでおり、65歳以上の人口比率が36%です。そんな中、農業の生き残りをかけ、世羅幸水農園は農業の6次産業化を進めてきました。
- 6次産業とは、農業経営体(1次)が、食品加工(2次)に加え、流通・販売(3次)にも業務展開、経営の多角化を図る取り組みです。(1次産業×2次産業×3次産業→6次産業)
- <1次産業> 梨の栽培では大玉・高品質化に努力、摘果(今回ゼミ生が体験)など手間暇かけた作業で、世羅梨のブランド化に成功してきました。(栽培面積 56.61ha。年間

出荷量 50 万 k g)

- <2次産業> せら梨ゼリー、シャーベット、たれ、ドレッシングなど、様々な加工品を展開、特に世羅高校と共同開発した、「世羅っとした梨ランニングウォーター」は販売1年足らずで10万本を売り上げています。
- <3次産業> 梨直売交流施設「ビルネ・ラーデン」を経営。梨以外の近隣農家の農作物も扱い、世羅町農業全体の底上げに貢献すると同時に、6次産業を意識した、終年の観光客集客を目指した活動が評価され、国の未来戦略に採用されました。
- 世羅高原六次産業ネットワークとの連携を大切に、小学生農業体験学習の受入れ、コーディネータ養成研修等といった活動をしてきました。特産品の自前加工、グリーンツーリズム、ホームページの情報発信・ブランド化等の活動も評価され、平成26年、国の総合化事業に認定され、天皇杯も受賞しています。
- これから幸水農園は？ 家族的協働経営、安全な食の提供、生産性の向上を3つの柱としつつ、6次産業化の強化を目指していきます。



## ⑤ 呉市豊町大長 <平成27年6月6日(土)>

### 浅川ゼミの発表

平成27年7月1日(水)に実施した地(知)の拠点教養ゼミ体験学習発表会における浅川ゼミ(1年生 11名)の発表概要は、以下の通りでした。

- 呉市豊町で体験授業を行いました。豊町大長では、瀬戸内の温暖な気候を生かし、水はけのよい段々畑でみかん・レモンを栽培しています。
- 肥料の三要素をご存知ですか? <窒素、リン酸、カリウム>です。大長では、煮干しの魚粉肥料を使用してきました。魚粉は、窒素とリン酸のバランスがよい有機肥料で、効果が早く出やすく、みかんを味良く、甘くしてくれます。だから、大長みかんはおいしいのです!
- 摘果作業。みかんは自然に自身でも摘果しますが、人間が人工的に手を加え摘果することで、よりおいしいみかんができます。手作業のほか摘果剤(ナフサク、フィガロン)を使用することもあります。(ただし散布量には注意が必要です。)一次摘果で2、3個を残した後、二次摘果では、葉っぱ15枚につき、大ぶりの実1個だけを残

します。午前と午後2回、摘果作業を体験。農家の方々と一緒に作業している間、みかんの栽培についていろいろお話をうかがうことができ、とても楽しかったです。



- みかん館を訪問。大長みかんの歴史について学びました。もともと桃が栽培されていましたが、1903年、大分から青江みかん（早生温州）を導入、高い品質が評価され、一時は天皇への献上品にもなりました。農家は蔵を持ち、収穫から出荷までの間、貯蔵・熟成するので、みかんの甘みが増し加わり、色もきれいなオレンジになります。また、他島に畑を持つ農家もあり、運

搬には農船が使われ、港が農船で溢れかえった時代もありました。

- 大亀農園では、手作り清見ジャムをいただきました。とてもおいしかったです。このような加工品は、変形、キズものの果樹も無駄にしない知恵でもあります。
- 大長では、レモンの栽培も日本一ですが、課題は若者の後継者不足です。「その解決のために、まず若者に農業に興味をもってもらうこと。それには、学校全体などで、若者に農業体験の機会を提供し、農業を知ってもらうことが良いと思います。私たちも、この体験授業を通じ、大長の農業について知ることができました。」
- また、大長では、毎年9月末の土日、毎年「大長櫓まつり」を行っています。広大からもバスが出るそうですので、参加してゆきましょう。

## ⑥ 東広島市 ファーム・おだ <平成27年6月6日(土)>

### 富永ゼミの発表

平成27年7月22日(水)に実施した地(知)の拠点教養ゼミ体験学習発表会兼第2回円卓フォーラム第1部における富永ゼミ(1年生 10名)の発表概要は、以下の通りでした。

- 私たちは東広島市河内町北東部にある小田地区を訪問しました。
- 小田川を中心に棚状耕地が作られ、13の集落がある小田地域は、市町村合併、小規模零細農業、農業従事者の減少、過疎高齢化などにより、集落存続の危機にありました。
- そのような中、2005年11月、農業組合法人「ファーム・おだ」が設立され、組合による農地の管理・経営がスタートしました。農業機械を組織全体で共有することでのコスト減、土地を預けることでまとまった収入が入るなど、高齢者中心の組合

員にとってメリットが多く、法人の経営は、ほとんどの組合員から、高い支持を得ています。

- 主要な農作物はお米で、「ヒノヒカリ種」を主に栽培してきましたが、近年、栽培限界高度が100m以上変化したため、広島県では、変化した気候に合わせた新品種（「こいのよかん」など）の栽培を始めています。私たちは、ここで、手植えの田植え体験をさせていただきました。



- ファーム・おだは、「パン&マイム」を経営、米粉パンの製作・販売を行っています。米の消費量を増やし、国内食料自給率を上げることが目的で、小麦アレルギーの人も食べられるパンです。30種類以上、毎日約600個を売り上げています。
- 地域の食と農を見直す拠点づくりをめざし、「寄りん菜屋」の名前で、直売所、加工所、食堂を運営しています。新鮮で一般より安価、おふくろの味に出会えるほか、農業体験も提供しています。
- 今後の課題。1) 広報。田植え祭り、収穫祭などのイベントPRを、これまでの新聞、情報誌、HPなどに加え、若い人が多く集まる、駅や学校などにポスターを掲示することを提言します。2) 農家の若い世代の雇用。若い人たちに、ファーム・おだ主催のいろいろなイベントに参加してもらい、農業の楽しさや大切さを知ってもらえたらよいと思います。
- 田植え<手植え>の感想。する前はどのようなことかと思いましたが、やり終えた後は充実感がすばらしく、本当に楽しかったです！みなさんもぜひ体験してみてください。
- 10/18（日）ファーム・おだ収穫祭があります。時間がある人は、ぜひ参加してみてください。

## ⑦ 大崎上島町 金原農園 <平成27年6月13日(土)>

### 吉田ゼミの発表

平成27年7月22日（水）に実施した地（知）の拠点教養ゼミ体験学習発表会兼第2回円卓フォーラム第1部における吉田ゼミ（1年生 10名）の発表概要は、以下の通りでした。

- 広島県南東部に位置する40km<sup>2</sup>ほどの島、大崎上島町にある金原農園にうかがってきました。大崎上島町では、昭和60年くらいから人口が続けて減少、少子高齢化も進んでいます。また、これに合わせて、農業就業者人口も減少しています。
- せとかとレモン：「せとか」は、清見とマーコットの掛け合わせた高級柑橘です。薄皮で、みかんよりやや大きめ、250gほど。味がとてもよく、1個¥800の最高級品もあります。
- 「レモン」国内産レモンの栽培適地が瀬戸内の一部に限られているため、広島県が国産レモンの80%を栽培しています。ただし、レモン需要がピークの8月には国産レモンが収穫できないため、10倍量を輸入しています。金原農園では主にこのせとかとレモンを栽培しています。
- 大崎上島では、柑橘栽培の衰退を危惧した人たちが、農業組合法人「シトラスかみじま」を立ち上げました。目的は、IターンUターンを含めた後継者のための受け皿づくり。農業で食べていける所得が安定的に得られることと栽培労力の軽減化を目指し、ハウスの設置、農場整備等を行ってきました。農場整備には国・県からの補助金がありましたが、ハウス設置は対象外なので、大崎上島町の予算を回してもらうなど、苦勞を乗り越えてきました。
- ハウスでの栽培は完璧な管理・環境下で大量の収穫が可能です。作業が集中する収穫時の労働力不足が課題です。また、傾斜地での作業の省力化・軽量化を目標に、階段状園地で主幹形仕立ての温州ミカン栽培を試験的に行っています。主幹形とは、直径1.2mほどの円柱上の樹形です。
- 最後に「これからの農業は、土地の広さではなく、道の駅での委託販売など、消費者の需要に合わせた、広い世代に受け入れられる売り方の工夫が重要」と金原さん。
- 人手募集！金原農園で2月～3月の間、3食寝床付き時給¥800で、せとか収穫作業の手伝い者を募集しています。希望者はせとか付きです。



## ⑧ 大崎上島町 海藻塾 <平成27年6月13日(土)>

### 太田ゼミの発表

平成27年7月22日(水)に実施した地(知)の拠点教養ゼミ体験学習発表会兼第2回円卓フォーラム第1部における太田ゼミ(1年生 10名)の発表概要は、以下の通りでした。

- 大崎上島町大串海岸に行ってきました。大崎上島は瀬戸内海の中央に位置し、広島県で3番目の面積の島、本土と橋でつながっていないのでフェリーで行きます。
- 体験を受け入れてくださった海藻塾では、海藻の採集・試食を通し、瀬戸内の自然・食文化を学ぶことができます。海藻塾は、地域資源として活用されていない地元の海藻を漁業の振興・地域の発展に役立てようと様々な活動しています。
- 海岸清掃を体験。大串海岸で、ビニール・ペットボトルなど浜全体に打ち上げられているごみを回収しました。大串海岸は本州からの漂流物ゴミが多く、定期的にボランティアで清掃を行っているそうです。そのあと、シーカヤックに試乗、海上からの景色にいやされながら、楽しい時間を過ごしました。  
海藻食品の試食。お昼には、地元の方々に、郷土料理・海藻を使った料理をふるまっていただきました。海藻を使ったいぎす豆腐など、どれもおいしくて、何回もおかわりしていただきました。
- 海藻塾に伺って海藻について興味を持ったので、海藻について調べました。東日本と西日本で分布が異なり、西日本では紅藻類が中心です。海藻は、効率よく食物繊維・ミネラルが摂取できる上、ノンカロリーでダイエットにも向いた優れた食品。特に、大崎上島が商品化した「アカモク」は、味や香りにクセがなく、多くの栄養素を含む上、海中の窒素・リン等を分解、赤潮の原因を除去してくれます。グルタミン酸、アスパラギン酸など、多くのうまみ成分を含む海藻は、日本では弥生時代から食べられています。
- 海藻塾の問題点を考える：知名度がまだ高いこと、外から調べると情報が少ないこと、交通手段の確保。それらを改善するために、体験の機会を多く作り、年齢にかかわらず、多くの人に参加してもらうこと、また、ホームページやSNSを通して、大崎上島および海藻塾の魅力を多くの人たちに発信していくことを提案させていただきます。
- はなやかさを加えるため、ゆるキャラを考えてきました。A、Bどちらか良いと思う方に拍手願います。(パチパチパチ……Aがやや多い…) Aを提案させていただきます。





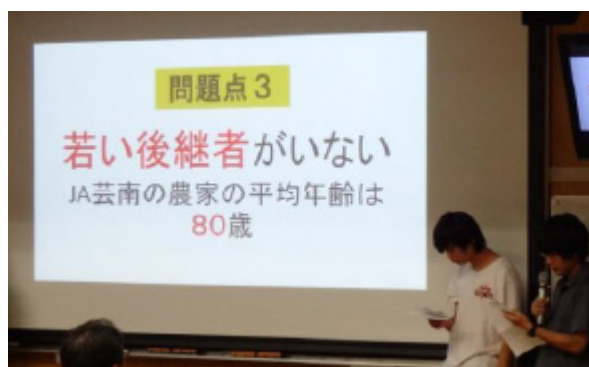
- 最後に、海藻・環境について学習の場を設けていただき、さまざまな貴重な体験をさせていただいた、道林塾長をはじめ、大崎上島の方々に心からの御礼を申し上げます。ありがとうございました。

## ⑨ 東広島市安芸津町 JA 芸南 <平成 27 年 6 月 20 日(土)>

### 都築ゼミの発表

平成 27 年 7 月 22 日(水)に実施した地(知)の拠点教養ゼミ体験学習発表会兼第 2 回円卓フォーラム第 1 部における都築ゼミ(1 年生 10 名)の発表概要は、以下の通りでした。

- 私たちは JA 芸南にビワの収穫体験をしに行ってきました。JA 芸南は、広島県西部沿岸に位置し、呉市川尻町・安浦町、東広島市安芸津町で活動している農業組合組織です。年間平均気温 15℃、降水量 1300 ミリという温暖少雨な気候を生かし、びわ、いちじく、柑橘類、じゃがいもなどの特産品を生産しています。
- びわは、長崎早生、茂木、田中といった品種があり、品種により収穫時が異なります。JA 芸南では、全生産量の 90%以上が「田中」で、田中は甘みが強く、適度な酸味があり、寒さに比較的強い品種です。びわは、非常に体によい食べ物で、βクリプトキチンサン、クロロゲン酸、タンニン、ビタミン B17 を含み、がん予防、アンチエイジングなどに効果があります。
- JA 芸南では、ジャボンも取り扱っています。ジャボンは、安芸津町でしか栽培されていない柑橘類で、サプリメント、ママレード、サイダーなどの加工品に用いられています。ジャボンもとても体に良い果物で、ナリンギンという苦味成分を含んでいます。
- JA 芸南の現状と問題点。1) 収入が不安定：びわはデリケートな果物で、気候の影響を受けやすく、年により収穫量に差が出ます。2) 労働力不足：びわもじゃぼんも完熟手前で一気に収穫・出荷する必要があり、特にびわは収穫期間が 1 か月足らずです。傾斜地なので作業機械が入らず、すべて手作業なため、夫婦二人では人手がたりません。3) 後継者不足：JA 芸南の農家の平均年齢は 80 歳(日本全体では平均年齢 72 歳)。後継者がいない原因は年収が 40~100 万円と低いこと。これでは、若い人が子育てしながら農業で生活を立てるのは困難です。
- JA 芸南の解決策。1) ボラバイトを募集：最低賃金以下で農作業のお手伝いをしにき



てもらう。「おもろい農」で募集、広大掲示板もみじにも掲載されます。2)「おもろい農」: 一般市民や大学生から構成されるボランティア組織。平成23年12月から援農ボランティアの受け入れを展開、年間300人ほどを受け入れてきました。20代の青年を就農させる活動も行い、ジャボンなどの加工品の開発にも協力しています。

体験授業を終えての感想。「びわは、思わずつまみぐいしてしまったほどおいしかったです。木がたくさんある傾斜地での作業は想像以上にたいへんで、ご高齢の方にはつらいものがあるのではと思います。私たちのような若い世代がボラバイトに積極的に参加する必要があるのでは、と思いました。」

## ⑩ 三次市道の駅ゆめランド布野 <平成27年7月4日(土)>

### 船戸ゼミの発表

平成27年7月22日(水)に実施した地(知)の拠点教養ゼミ体験学習発表会兼第2回円卓フォーラム第1部における船戸ゼミ(1年生 10名)の発表概要は、以下の通りでした。

- 私たちは、三次市道の駅ゆめランド布野に体験学習に行ってきました。
- 三次市布野町は、島根県との県境、中国山地内陸中央部に位置し、人口1,581人です。
- 道の駅「ゆめランド布野」は国道54号線沿いにありますが、尾道松江線の開通により54号線の交通量が半減したため、来客数が減少しています。特徴は、地元の取れたて農産物を使った「惣菜バイキング」、布野産の生乳、食材を使った「まるごと布野のアイス屋さん」、新鮮な野菜が生産者から直接届く「布野ふれあい市場」。ほかに、各種イベント体験教室を開催しています。
- 道の駅の一般的な3つの機能、また、ゆめランド布野の経営理念・取り組みについて、廣田幸男代表取締役からお話をうかがいました。経営理念は「農」。農業の力で人口減少を食い止めようと、個人農家と大型農家、農業法人との連携に力を入れています。また、消費者の求めに農業者が応えていく苦労を消費者に伝えたいと、仲介体験コーナーを設けています。
- アスパラ収穫体験。大前農園にうかがい、決められた長さにアスパラを収穫したあ



と、経営者の大前さんから、経営方針についてお話をうかがいました。新鮮なアスパラを生で試食させてもらいましたが、市販のよりずっとみずみずしくて、味が濃かったです。

- 江の川河川清掃。アユのエサである藻が岩に付着するように、デッキブラシで、岩の砂落としをしました。そのあとアユの塩焼きを体験させていただき、地元産バイキング弁当を頂戴しながら、地元の方々と布野の活性化について意見交換しました。
- 私たちは今回事前学習で、道の駅ゆめランド布野について、調べ、議論した結果、すぐれている点は、自然と触れ合えること、アイスクリームの種類が豊富なこと、改善すべき点は、フェイスブックなどの情報発信が少ないこと、バイキングでの時間が少ないことだと思います。
- ゆめランド布野さんから、3つの要望をいただきましたが、(下段スライド参照)、それらへの提案は、船戸ゼミが中心となり、ゆめランド布野さんと共同で、広大で研究している酵母を入れ、お酒風味のオリジナルアイスをつくることです。このアイスを広大の行事などで販売、情報発信してゆき、アイスクリームを目的に道の駅に来てくれる人も増え、ゆめランド布野の目玉商品になることもありえないことではないと思います。